



留学経験者インタビュー

木村 由佳先生（弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座）

1. 留学先はどちらですか？

米国ジョージア州、エモリー大学整形外科

2. どのくらいの期間いかれましたか？

半年間

3. 卒後何年目あるいは何歳ころいかれましたか？

卒後 13 年目、38 歳のときに行きました。

4. 留学を目指したきっかけは何かありましたか？

機会があれば海外の医療現場をみたい、という希望はありましたが、弘前大学整形外科の同門会で優秀論文賞を受賞すると留学できるシステムがあり、そこで留学してもよいという許可をいただいたため喜んで行きました。

5. 留学に際し、費用面で公的援助・給与などを受けることはできましたか？

弘前市で募集していた「先端医療に携わる人材育成事業による研究留学」より助成をいただきました。

6. 留守中、職場・家庭において準備したことなどありますか？

職場はグループ診療で行っており、上司が快く送り出してくださったため日常診療に関しては特に問題ありませんでした。日々の雑務は後輩に申し送ったため負担をかけたと思います。後輩が留学する際には快く送り出したと思っています。

7. 留学先では、主にどのような経験をされましたか？

主に手術見学と外来見学の毎日でした。外来では症例ごとにドクター、レジデントやフェローとディスカッションをしていました。スポーツクリニックにいたので、週末はスポーツ観戦もかねてフィールドにも行きました。症例検討会や ground round などの整形外科の日々の勉強会のほか、期間中に米国で開催されていた学会（ORS や AAOS）にも参加しました。

8. 留学先で苦労されたことはどのようなことですか？

言語の問題はありましたが、周りの人が親切で助けてくれたこともあり、すごく困ったということはありません。

9. 留学して、新たに経験されたこと・学ばれたことはありますか？

アメリカの医療システム、教育システム、疾患や治療に対する考え方の違いのほか、日常生活においても文化や生活様式の違いなど日本とは異なるものが多く、広い視点で物事を考えるということ学びました。

10. 帰国後の職場復帰はスムーズでしたか？何か苦労されたことはありますか？

短期間の留学でもありましたので、復帰に関しては特に問題ありませんでした。すぐに現実に戻りました。

11. 留学経験は、ご自身のキャリアに何か影響を与えたと思われますか？

留学をして視野が広がったことで、医学的のこともその他のことも今まで日本で行われていることを基準に考えていたことに気づきました。論文を書いている、「これは日本以外の人には理解されないかな」、などと考えるようになりました。

12. 留学を考えていらっしゃる先生方に何かメッセージをお願いできませんか？

留学して異国の地に暮らし、学ぶ経験は何事にも変えられない貴重な機会だと思います。日本でしか通用しない考え方から、世界でも通用する考え方を学ぶことができます。留学しなければ会うことがなかったような様々な人々との出会いもありました。チャンスがあればぜひ留学してみてください。